

令和6年度トヨタ工業学園卒業式 豊田会長あいさつ

卒業生の皆さん、ご家族の皆様、ご卒業おめでとうございます。

また、ご多用の中、愛知県労働局の森英輝様をはじめ

多くのご来賓の皆様に、ご臨席賜り厚く御礼申し上げます。

卒業生の皆さん、この壇上から見える皆さんの姿勢、私を見つめる眼差し。

本当に頼もしくなりましたね。

皆さんのこれまでの努力がその姿に表れていると思います。

高等部の皆さん、

今年の学年キーワードは「カッコいい大人へ」でしたね。

オーストラリアでのホームステイでは

ホストファミリーとの別れ際に涙を流した人もいたと聞いています。

見ず知らずの自分を受け入れ、我が子のように接して下さった

ご家族への感謝の想いが、涙となり溢れ出たのだと思います。

言葉や文化が違ってても、

むしろ、違うからこそ相手の気持ちを想像する。

そして、違いを個性として認め合い、お互いに助け合う。

皆さんがホームステイで経験したことは、

まさに「カッコいい大人」への第一歩になると思います。

専門部の皆さんは、

あらゆる行事において、自ら考え、行動してくれましたね。

下山・平山地区の地域貢献活動では、清掃作業が予定より早く終わると

率先して、畑の整備をしてくれました。

大雨のなか、懸命に取り組む姿を見た花山小学校の先生方は、

「こんなに素晴らしい若者たちがいたのか」と感動して涙を流されました。

皆さんお一人お一人の

意志ある情熱と行動が、多くの人々の心を動かしたのだと思います。

卒業生の皆さんがこの学園で学んだこと。

それは、自分以外の誰かを思いやる「優しさ」であり、

ここまで育ててくださった「ご家族への感謝」だったのではないのでしょうか。

トヨタの原点は、「苦勞する母親を樂にしたい」という一心で
織機の發明に打ち込んだ豊田佐吉の「家族への想い」です。
まさに、皆さんが學んだことそのものです。

昨年6月、「トヨタの子」という小説が發行されました。

その小説の中に、1950年の労働争議を描いたシーンがあります。

クルマをお客様に届けることができない苦しみを背負いながら、
トヨタの未来のために闘い続けてきた従業員。

その姿を見て、社長の豊田喜一郎は、こうつぶやきます。

「人生の時間のほとんどを会社に捧げてきた彼ら彼女らはトヨタそのものだ。

みんながトヨタの子だ」

私にとっては、ここにいる卒業生229名全員が、「トヨタの子」です。

なぜならば、今の皆さんが、トヨタの原点である

「家族への想い」を、誰よりも強く感じているからであります。

どうか今の気持ちを忘れないでいてください。

そして、誰かを助けることができる自分ならではの「技」を磨き続けてください。

人としての「優しさ」と独自の「技」で

日本の未来をつくるトヨタの子であり続けてください。

皆さんならきっと出来ると思います。

そして、指導員の皆さん。

卒業生たちに、手本となる大人の姿を示していただき、ありがとうございます。

卒業生にとって皆さんは、人生で初めての上司でもありました。

これからも成長を見守っていただきたいと思います。

ご家族の皆さま、

卒業生が立派に成長できたのは、学園に入る前の

ご家庭での教育があったからこそだと思います。

何もできなかった小さな頃から、生きるために必要なことを

心を込めて教えていただいたと思います。

その教えがあるからこそ、卒業生は、厳しい訓練を耐え抜き、

ここまで成長できたのだと思います。

大切なお子様をお預けいただき、本当にありがとうございました。

卒業生全員の今後の人生が

笑顔にあふれ、幸せなものになるよう、

私も全力でサポートいたしますのでどうかご安心ください。

改めまして、皆さん、ご卒業おめでとうございます。

令和 7 年 2 月 17 日

トヨタ自動車株式会社

代表取締役会長

豊田章男